

## 平成28年度事業計画書

### (1) 博物館の普及啓発に関する事業

#### 1) 月刊誌「博物館研究」の刊行

博物館の総合研究情報誌として、内外の動向を反映しつつ博物館の取り組むべき課題について、毎号特集テーマを設定して内容の充実を図るとともに、博物館関連の最新情報、地方の動向、海外ニュース等各種情報の提供に努める。また、発行部数の拡大に努め、今後の編集方針・装丁等についての検討を継続する。

#### 2) 全国博物館大会の開催

第64回全国博物館大会を、群馬県・群馬県教育委員会・高崎市・高崎市教育委員会・群馬県博物館連絡協議会の共催のもとに、文部科学省の後援を得て、平成28年11月16日(水)、17日(木)、18日(金)の期日で、群馬音楽センター及び群馬県立歴史博物館において開催する。

開催地高崎市の群馬県立歴史博物館は、本年7月にリニューアル・オープンを迎え、全国の博物館関係者の注目を集めている。本大会では、3日間にわたり博物館に関する諸問題について研究協議を行い、「博物館をつなぐ、世界がつながる」(仮テーマ)をメインテーマに、基調講演、全国博物館フォーラム、シンポジウム、分科会等を行う。

#### 3) 全国博物館長会議の開催

博物館運営の中核である館長を対象に、全国博物館長会議を、文部科学省との共催のもとに、平成28年6月8日(水)に文部科学省講堂で開催する。文部科学省・文化庁の博物館担当官等による平成28年度事業の行政説明及び当協会の平成28年度事業計画等の説明を行うとともに、博物館運営及び館長のリーダーシップなどについてシンポジウム等を行う。

### (2) 博物館に対する支援に関する事業

#### 1) 博物館利用支援機器の支給

子育て世代、高齢者、障がい者等の博物館の利用の促進を図り、これらの人々の文化的、知的要求に応えるとともに、生き甲斐と豊かな生活を支援するため、一般財団法人日本宝くじ協会の助成を得て、今年度は車いす・ベビーカーの支給を行う。

支給予定台数	車いす	200台
	ベビーカー	帆なし 120台

## 2) 博物館絆プロジェクトの実施

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災から 5 年が経過したが、被災した文化財と博物館の復興・再生には未だ残された課題は多く、当協会では継続的な復興支援のため平成 24 年度に「博物館絆プロジェクト」を立ち上げ、復興事業に取り組んできた。

今年度は、引き続き、国立文化財機構を中心とする全国規模での「防災ネット」構築事業の構成団体として、博物館の防災体制の整備を進めるとともに、平成 26 年度から文化庁の助成金事業として実施している「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」を継続し、5 年間で培われた技術を広く全国に紹介し、博物館関係者・国民への普及・啓発事業を展開する。なお、絆プロジェクトの実施財源には義捐金を当てることとし、事業の長期化が見込まれることから、引き続き義捐金の募集を継続する。

## (3) 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業

### 1) 「博物館総合調査報告書（博物館白書）」の刊行

平成 25 年度に、滋賀県立琵琶湖博物館を中心に科学研究費プロジェクトと連携して全国の博物館を対象に実施した、博物館の運営及び活動に関する総合的な実態調査の結果を整理・分析したデータ集として「博物館総合調査報告書(博物館白書)」を刊行し、各博物館及び関係機関に配付する。

### 2) 博物館登録制度の在り方に関する調査研究（2 ヶ年継続事業）

博物館の運営形態が多様化する中で、現行博物館法と博物館の運営実態の乖離が進む状況を踏まえ、平成 26 年度に設置した「博物館登録制度の在り方に関する調査研究委員会」での調査研究を 1 年度延長する。今年度は、委員会での議論を深めるとともに、新たな登録制度の在り方について、広く関係者の意見を聞く機会を設けつつ報告書にまとめるとともに、第三者機関としての日本博物館協会の役割、博物館法の改正についての調査研究を進展させる。

### 3) 博物館に関する情報の提供

- ① 全国博物館園職員録等を刊行し、博物館活動に必要な情報を提供する。
- ② 全国の博物館の所在地、交通案内、収蔵品、常設展示等について記載した全国博物館総覧の編集を行い、博物館活動の連携を推進するための情報を提供する。

## (4) 博物館関係者の資質の向上に関する事業

### 1) 研究協議会の開催

博物館の学芸員をはじめ職員の資質の向上を図るため、当面する諸課題を含め博物

館運営に関する理論と実際について2～3テーマを設定し、2日間のプログラムとして全国から会場を選定し開催する。

## 2) 顕彰の実施

博物館に永年勤続し功労のあった博物館職員等に博物館功労賞を授与するとともに、前年度「博物館研究」に掲載された優れた論文について棚橋賞を、また、優れた実践報告等に対する博物館活動奨励賞を授与し、その功績を顕彰する。

## 3) 美術品梱包輸送技能取得士資格認定事業の実施

平成24年度から試行実施した美術品梱包輸送技能士資格認定事業（平成25年度から美術品梱包輸送技能取得士資格認定事業と改称）については、平成25年度に1級（上級）資格の試行試験を終了したことに伴い、平成26年度から、3級（初級）、2級（中級）、1級（上級）について、本格実施している。今年度は、各級の合格者等を対象に、確実な技能の取得を目的とする研修等の実施について、試行を含めて検討する。

また、資格認定制度の普及を図るため、各博物館及び関係機関に、美術品の梱包輸送に当たっては、本認定資格者を有する美術品取扱い業者を優先して採用するよう働きかけて行く。

## (5) 博物館の国際交流に関する事業

### 1) 「国際博物館の日」事業の実施

I COM（国際博物館会議）が世界規模で行う「国際博物館の日」と連動して、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールするため、例年どおり5月18日の「国際博物館の日」を中心として、文部科学省の後援を得て、全国の各博物館において、入館料の無料化、記念品の作成・配付、展示会の企画、講演会の開催等の記念行事を展開する。I COM本部から示されたデザインに基づく国内用のポスターを作成し各博物館及び関係機関に広く配布し、博物館の存在と活動の広がりをアピールする。2016年（平成28年）の国際博物館の日のテーマは、「Museums and Cultural Landscapes（博物館と文化的景観）」である。

また本年は、5月22日（日）に、「博物館と文化的景観」をテーマとする文部科学省主催の国際シンポジウムを、I COM国内委員会との共催で開催し、海外から招聘する講師も交えた討論を深め、2019年I COM京都大会に向けた準備を加速させる。

### 2) 月刊誌「博物館研究」において、国際交流関係の情報を充実するとともに、I COM本部での諮問委員会をはじめ、イタリア・ミラノで7月3日から9日にかけて開

催される大会を中心に、各国際委員会等へ専門家・職員を派遣し国際交流の推進に努める。

(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

- 1) 各地区単位の博物館の会議に共催者として職員の派遣及び情報提供等の支援を行う。
- 2) 希望会員館園を構成員として、施設賠償責任保険（賠償責任保険制度）及びレジジャー・サービス施設費用保険（見舞金制度）の団体加入の周知と加入促進に努め、入館者に対する安心・安全の確保を図る。
- 4) 我が国の博物館の国際化を進めるため、2019年（平成31年）のICOM京都大会について、ICOM日本委員会と連携し、開催準備組織として大会組織委員会を組織・整備するとともに、7月のイタリア・ミラノ大会にできるだけ多くの関係者の参加を促し、2019年京都大会に向けた準備を進める。
- 5) 平成30年の日本博物館協会創立90周年に向けた事業等の拡大・充実及び財政基盤強化に係る抜本的対策について、事務局体制の強化を含め、引き続き検討を行う。